

日本語日本文学専攻の小論文は、問一では文章を的確に読み取り要約する力を問い、問二ではそれをもとに多様な考えを論述する表現力を問うものである。よって、問二においては解答例に代えて出題の意図を示す。

問一（二〇点）

【採点のポイント】

- ・ 本文の内容を理解できていること。
- ・ 要点がまとめられていること。
- ・ 文章表現のきまりに則していること。

【解答例】

リービ英雄は、日本では、日本語が「日本人」「日本民族」と強固に結びついたものとして考えられており、日本人以外の人間が日本語の担い手として想定されていないと批判している。国際化とグローバル化が進んでいる現在、外国人であっても、日本人と同じように日本語を習得し、操ることが可能であるにもかかわらず、依然として日本語は日本人のものであるという考え方が残っていることは、時代錯誤で人種主義的であるから。（二〇〇字）

問二（八〇点）

【出題の意図】

日本語とは何か、日本語と日本文化とはどのようなつながっているのかという問題は、日本語日本文学専攻に入学した学生にとっては常に意識すべき問題となる。本文は、日本語と日本人、日本語と日本文化のつながりは自明ではないこと、「日本語を学ぶ」現象の背景にも、経済的功利性と競争の追求というイデオロギーが入り込んでいることを指摘している。こうした問題意識を本文から読み取り、自分の意見を論理的に表現できるかどうかを問うものである。

【採点のポイント】

- ・ 賛否の対象となる「経済的功利性」によって、日本語が海外に広まることについて、正しくとらえていること。
- ・ 賛否を明示していること。
- ・ 自分の意見が論理的に述べられていること。
- ・ 文章表現のきまりに則していること。
- ・ 段落わけなど文章の構成が明快であること。